

鹿島少年自然の家の令和5年度管理状況

様式 1

施設所管課	教育委員会事務局生涯学習課
施設管理者	一般財団法人石川県県民ふれあい公社 理事長 小嶋 正敬
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
中期経営目標 (R4～R8)	・利用者数を5年間で4%増加させます。 ・利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。

1 中期経営目標達成に向けたサービス向上・利用促進等の取組

(1) 実績

項 目	実施内容
① サービス向上・利用促進	職員の資質の向上 ・石川県青少年教育施設協議会資質向上研修会の受講 利用者の苦情・意見の把握・対応 ・利用団体アンケートの実施 ・利用者ニーズの反映（水分補給場所の追加提供等） 自主事業の企画・実施 ・料理プログラム2事業実施（参加者数72人） 体験活動プログラムの実施 ・サマーチャレンジの実施（参加者数 1回/114人） ・子ども自然学校の開催（参加者数 15プログラム 948人） ・SDGsエコキャンプ「食コース」の実施（参加者数 1回/76人） 食をテーマに「食品ロス」「地産地消」「ゴミの削減」を参加者に意識をしてもらい実施した。（商品規格外のりんごを使ったアップルパイ作り等）
② 広報活動	施設の情報提供・広報・広告 ・主催事業広報用のリーフレットの作成・配布 ・近隣の小・中学校を訪問し、季節に応じた利用の提案（夏合宿、スキー体験等） （内灘、津幡、かほく、宝達志水、羽咋、志賀、中能登、七尾の市町に配付） ・近隣の公民館や老人団体等の一般団体を訪問し日帰りでの利用を提案

(2) 令和6年度における取組内容の見直し等

実施内容
・当館の利用が少ない小学校3、4年生を主な対象として開発したSDGsプログラムの実施。（廃棄おからを使ったピザ作り、商品規格外のりんごを使ったアップルパイ作りなど） ・閑散期の平日利用促進のための魅力あるプログラムの提供、案内を実施。

2 中期経営目標の進捗状況

測定指標	H29～R1 年度 (基準値)	R3年度	R4年度	R5年度	前年度比	基準値比	R8年度 (目標値)
(1) 利用者数（人）	13,774人	4,768人	7,317人	13,402人	183.2%	97.3%	14,350人
(2) 貸館稼働率(%)					.0%	.0%	
(3) 利用者アンケート における満足度							
利用者サービス(%)	95.0	91.5	90.0	83.7	-6.30%	-11.30%	95.0
施設の維持管理(%)	95.0	81.0	72.1	58.6	-13.50%	-36.40%	95.0

※基準値は中期経営目標における基準値

<利用者数、貸館稼働率など利用指標に係る増減理由>

指 標	対前年度増減理由	対基準値増減理由
利用者数	令和5年度の利用者数は13,402人、前年度比183.2%(6,085人増)となった。能登半島地震で被災地支援者を受け入れたことで人数が増加した。	対基比は97.8%(▲598人)となった。学校団体がまだ戻ってきていないことから、基準値を下回った。

<利用者アンケート結果（通年実施 有効回答数123件）>

項 目	回 答			
	良い	概ね良い	やや悪い	悪い
利用者サービス(%)	83.7	10.6	0.0	5.7
施設の維持管理(%)	58.6	33.3	1.8	6.3

3 施設等の維持管理

項 目	実施内容
(1) 清掃	・ 日常清掃：毎日 1 ～ 2 回 ・ 浴場配管清掃：年 1 回 ・ 特別清掃(害虫駆除)：年 1 回
(2) 設備保守点検	・ 電気設備 ：年 6 回 ・ 消防設備 ：年 2 回 ・ 給排水衛生設備：年 6 回 ・ ルーター保守 ：通年
(3) 植栽維持管理	・ 日常業務として建物周辺管理
(4) 警備	・ 施設全体の警備（常駐、〈宿泊者がある場合〉夜間警備、巡回警備等）及び駐車場管理を毎日実施
(5) 小規模修繕	・ 誘導等取替修繕 ・ 公用車修理 など

4 管理運営体制

項 目	実施内容
(1) 緊急時の対応・安全管理などの危機管理	・ 新型コロナウイルス感染症に対する危機管理として、宿泊施設に関する業界団体ガイドライン等に基づいて対応 ・ 緊急連絡網、消防計画、危機管理マニュアル作成 ・ 避難訓練の実施 年 2 回 (R5年度は震災の影響で行えず 1 回実施)
(2) 個人情報の管理状況	・ 基本協定（個人情報の取扱いに係る特記事項）に基づき、適正に管理

5 収支状況

(1) 使用許可等の状況

(単位：件)

項 目	許可件数	不許可件数	不許可理由
鹿島少年自然の家	184	0	
合 計	184	0	

(2) 使用料の収入実績（利用料金の収入及び減免の状況）

(単位：千円)

項 目	収入額	減免額	減免理由
食事料	5,270		
寝具料	297		
暖房料	120		
スキー用具料	3		
合 計	5,690	0	

(3) 収支決算

(単位：千円)

収 入		支 出	
指定管理料	41,638	人件費	26,476
利用料収入	14,666	光熱水費	6,292
その他	3,789	修繕費	1,728
		その他	20,829
合 計 ①	60,093	合 計 ②	55,325
収支差額 ①－②	4,768		

6 利用者からの意見、苦情、要望

年 月	内 容	対 応
令和5年8月	夏の利用でエアコンがないのは厳しい	引き続き予算要望にあげる

7 事故、故障等

年 月	内 容	対 応

8 その他報告事項など

--

9 評価結果

評価項目	評価	所見（工夫・改善点）
(1) 中期経営目標の達成に向けたサービス向上・利用促進等の取組	B	・近隣の小・中学校、公民館等を対象に施設利用について積極的に広報活動を行っている。 ・料理プログラムの新規メニューの開発に積極的に取り組むとともに、事業の企画・実施により、閑散期の平日利用促進を目指している。 ・SDGsの理念のもと、食をテーマにした学校の教育課程に準拠したプログラムの開発・提供に努めている。
(2) 施設等の維持管理	B	・利用者の安全性を考慮し、施設の修繕等に積極的に対応している。 ・施設内は清潔に保たれており、適切な管理が行われている。また、新しい生活様式に応じた具体の対策を講じている。
(3) 管理運営体制	B	・教育施設としての機能が発揮できる、適切な職員の配置がなされている。野外炊飯やいかだ体験では必要に応じて施設職員が活動補助を行っている。 ・大学生等のボランティアを積極的に受入れ、きめ細やかな指導ができる体制を整えている。 ・非常時の連絡体制や消防計画などが定められ、安全対策が適切である。 ・能登半島地震の影響で、被災地支援団体を受け入れる体制を整え、実施している。
総合評価	B	・仕様書等に基づき適切な管理運営を行うとともに、施設利用のPRや利用者満足度の高いサービスの提供に積極的である。

○ 評価基準

- A（優）：仕様書等に定める水準を大いに上回っており、その結果、優れた実績をあげている
- B（良）：仕様書等に定める水準を上回っている
- C（可）：概ね仕様書等に定める水準どおり実施されている
- D（不可）：仕様書等に定める水準を下回っており、改善を要する部分がある

○ 総合評価

- A（優）：優れた管理運営がなされており、かつ、十分な実績をあげている
- B（良）：優れた管理運営がなされている
- C（可）：適正な管理運営がなされている
- D（不可）：改善が必要である

10 助言・指摘事項